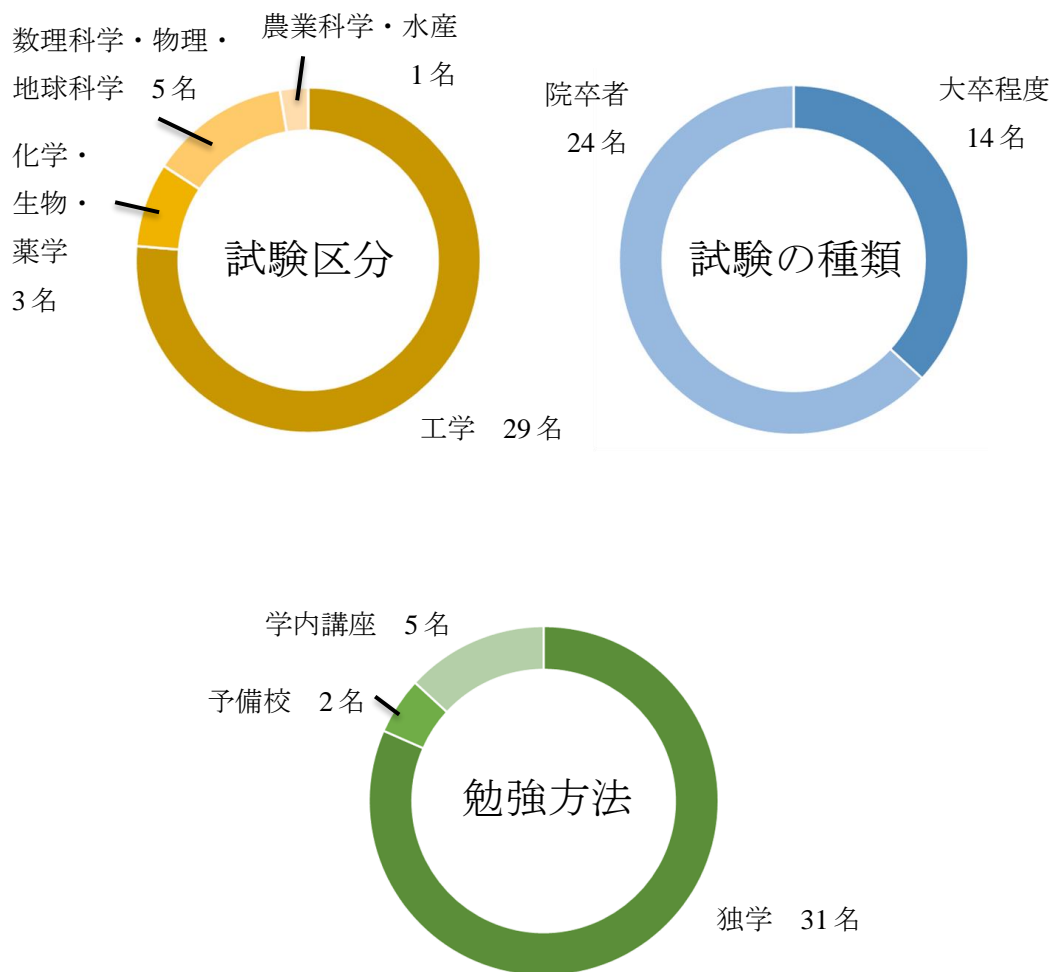


## 第二部 国家公務員採用総合職試験 体験記

この第二部では、内定者 10 名による国家公務員総合職試験の勉強・対策方法をお伝えします。

### 過去5年分 総合職理工系内定者の試験区分・勉強方法の内訳



本冊子に記載している試験方法や内容は、2019年度国家公務員採用試験について述べたものであり、次年度以降の試験とは異なる可能性があります。また、勉強方法や選択問題のオススメ等については、あくまでも内定者個人の見解に過ぎず、もし事実と異なった場合でも責任はとりかねますことをご了承下さい。あくまでも、本冊子は参考としてご覧いただければ幸いです。

(参考)

2015年度の試験から、TOEFL (iBT)、TOEIC、IELTS、英検のスコアに応じた得点が試験の総得点に加算されるようになりました。例えば TOEIC なら 600 点以上で 15 点の追加、730 点以上で 25 点の追加です。詳細は人事院の Web サイトをご確認下さい。

－ 国家公務員総合職試験の内容の簡単な説明 －

試験区分には、大卒程度試験と院卒者試験の2区分に加え、専門科目による区分が存在します。また、試験は大きく2つに分けられ、「一次試験（マーク式試験）」、「二次試験（記述式試験＋政策試験＋人物試験）」があります。これらの筆記試験の過去問は人事院に請求することで入手できます。英語試験による加点システムもあるので、利用予定であれば別途英語試験（TOEFL (iBT)、TOEIC、IELTS、英検）を受験する必要があります。

◆ 一次試験

**基礎能力試験（マーク式）**

いわゆる教養試験で、大卒40題、院卒は30題です。問題は多岐に渡っており、国語力や英語力、頭の柔らかさ、知識力などが試されます。

**専門試験（マーク式）**

専門は大卒も院卒も40題です。選択する専門区分によって形式が異なるのでよく確認が必要です。

一次試験合格！！



◆ 二次試験

**専門試験（記述式）**

完全記述式です。基本的には、複数の分野から1～2問選択して回答します。理工系においては専用の参考書などはあまりないので、大学の定期試験、院試、過去問や専門書による勉強が中心となるようです。

**大卒程度**

**政策論文**

専門試験と同じ日に行われる試験です。出題されたテーマに対し、与えられた3つの資料を使いながら、A4裏表1枚に自分の考えをまとめていきます。配布資料は文章とグラフの両方が与えられ、英語の資料が用いられる場合もあります。

**院卒者**

**政策課題討議**

専門試験とは別の日に行われる試験です。配布される和文・英文の資料に目を通し、自分の意見などを加えた討論用のレジュメを作成します。グループ全員にレジュメを配布し、意見発表、集団討論、もう一度発表、という手順で行います。

**人事院面接**

当日までに面接カードを記入して、基本的にその内容に沿って質問される個人面接です。面接時間はおよそ10～20分程度で、面接官は3人（人事院の方と各省庁の現役の方らしいですが真相は不明）です。

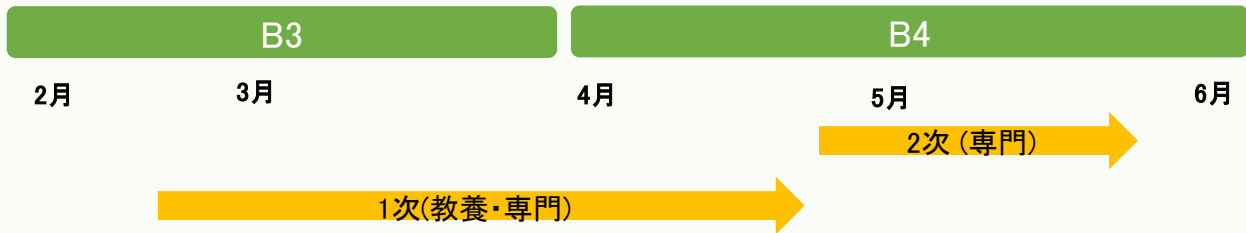
**国家公務員試験合格！ 官庁訪問へ！**

## くーちゃん☆ (工学区分/大卒程度/2019年度)

～大学所在地：福岡県 / 地球環境工学科 (土木・環境)～

### 1. 試験対策の概要

#### ● スケジュール



公務員講座などは特にとっておらず、3年の期末試験後に本格的に公務員試験勉強開始。今回は厳しいと思っていたが、1次の自己採点でどうやら合格ラインを突破してしまったらしいというので、慌てて2次の勉強を始めました。

#### ● 教養・専門・面接・論文/政策討議の勉強量バランス



3年2月に初めて総合職の1次の問題を目にして頭を抱えましたが、過去問を中心に解きました。

二次試験の過去問は難易度が非常に高く感じましたが、面接はそれに比べてコスト良く点数が稼げそうだったので、少し練習しました。

#### ● 試験結果

- ・ 席次 中の上
- ・ 英語加点 あり (25点)

#### ● 利用してよかったもの

- ・ 物理のリードα
- ・ 高校数学の問題集
- ・ 過去問
- ・ 省庁職員さんのアドバイス(勉強方法や応援のお言葉など)

### 2. 各試験の具体的な対策法

#### ● 教養1次

どうにもこうにも、数的処理と判断数理が意味不明だったのでバツサリ捨てました。その代わりに、日本語と英語の問題は落とさないようにし、理系で捨てる人の多い社会分野については消去法を使って解答しました。(社会の勉強は皆無でしたが。)

#### ● 専門1次 (技術論、工学基礎実験、土質力学・水理学、環境工学(土木)・衛生工学、構造力学(建築)、土木計画)

土木系のくせに土木が苦手だったので、逃げ道を探しました。前半の必答問題は中学・高校数学と高校物理をやればかなり取れます。選択科目は最大6科目を選択できたので、専門でない分野でも高校物理が通用する問題をかじることで、土木は分かりそうな簡単なところだけ解くという作戦を組みました。

#### ● 専門2次 (構造力学、環境工学)

2科目選択でしたが、一つは環境を選択しました。これは得意だったのと、出されそうな問題の目途をあらかじめつけてそこを重点的に勉強しました。

問題だったのは、自分が大学から習った科目から受験しようとする、組み合わせ指定でどうしても土木3力(構造力学・土質力学・水理学)のどれかを選択しなくてはいけないという逃れられない状況でした。泣きながら構造と水理を勉強し、本番で水理が理解不能だったので構造を選びました。

#### ● 政策論文

過去問を3回くらい演習して本番に臨みました。コンプライアンスの向上についての問題でしたが、自分はそのそもそもコンプライアンスが何なのか分からないという致命的な状況。とにかく載せられている資料から大体こんな意味だろうと予測して、合っているのか?という疑問を押さえつけ、書き進めました。

#### ● 人事院面接

面接はあまり難易度が高くないわりに合否への影響が大きいため、他の総合職志望の友人たちと10回程度練習と、面接カードの読み合いをしました。B以上をとることを目指しました。

## 赤ヘル（工学区分/大卒程度/2019年度）

～大学所在地：北海道 / 環境社会工学科 環境工学専攻～

### 1. 試験対策の概要

#### ● スケジュール



B3の秋頃から大学生協の公務員講座を利用して教養の勉強を始めました。専門科目に関しては大学の学年末試験が終わった2月上旬から取り組み始めました。専門2次の科目に関しては研究室に配属されたB4の4月から、研究室に置いてあった過去問を解いたノートを利用して勉強しました。

#### ● 教養・専門・面接・論文/政策討議の勉強量バランス



筆記試験に自信がなかったため試験の配点が高い専門分野を重点的に勉強しつつ教養試験対策にも一定の時間を割きました。

対策を始めるのが遅かったこともあり、小論文や面接についてはあまり力を入れて対策をしませんでした。

#### ● 試験結果

- ・ 席次 中の中
- ・ 英語加点 あり（15点）

#### ● 利用してよかったもの

- ・ 過去問を解いたノート
- ・ 民間の模擬試験
- ・ 『速攻の時事』
- ・ 新聞

### 2. 各試験の具体的な対策法

#### ● 教養1次

過去問を中心に、公務員講座で配布されたテキストを参考にして勉強しました。特に時事問題が苦手だったので、『速攻の時事』を参考にここ1年で起きた出来事を復習しました。また新聞を読むようにして時代の流れを追いかけるようにしました。

#### ● 専門1次（技術論、構造力学、流体力学、環境工学・衛生工学、熱力学）

基本的には土木分野の勉強をする要領で構造力学、水理学、土質力学を勉強して本番に難しい問題が出たら回避できる程度の余裕ができるようにしました。併願先が土木分野のみの受験だったので、記述問題で解き方を覚えて本番直前にマーク試験の勉強をしました。

#### ● 専門2次（環境工学・衛生工学(A)、熱力学）

環境工学に関しては、昨年度に国家総合職を受験された先輩のノートを借りて勉強しました。不明な点に関しては、環境省がWEB上に政策・法律として掲載したものを読んで勉強しました。熱工学に関しては授業で配布されたプリントを参照しつつ、不明な点は機械専攻の友人に教えてもらいながら進めました。

#### ● 小論文

小論文に関しては、数回添削をしてもらって基本的な文の書き方や構造、言葉の使い方をチェックしました。

#### ● 人事院面接

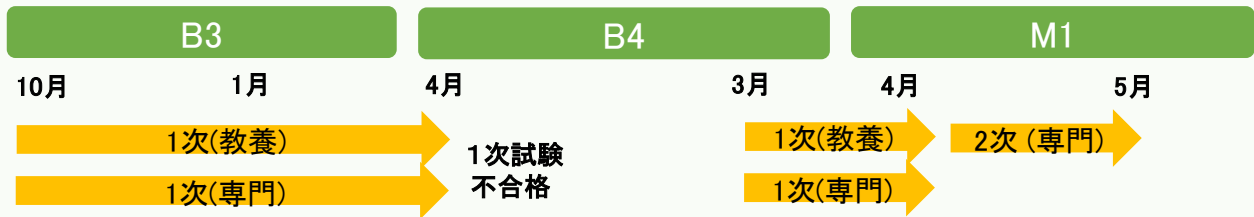
面接カードを何度も添削してもらい、質問されたときにすぐ自分の意見、考えを返せるように練習しました。また友人と面接練習をして、答えにくい質問を探して弱点を補強しました。

## モンガー（工学区分/大卒程度/2019年度）

～大学所在地：千葉県 / 土木工学科～

### 1. 試験対策の概要

#### ● スケジュール



B4のときに一次試験で落ちて、M1のときに合格しました。B3の秋頃から大学生協の公務員講座を利用して教養と専門の勉強を始めました。物理学を高校の時点で履修しておらず、その勉強が中心でした(工学区分受験生の中ではレアケースだと思います。)意識して総合職の勉強を始めたのは1月1日からです。その年は落ちて、M1のときに復習を1ヶ月程度して一次試験合格、その後に二次対策で間に合いました。

#### ● 教養・専門・面接・論文/政策討議の勉強量バランス



- 試験の配点が高い専門分野を重点的に勉強しました。工学区分ですが物理ができなかったのが本当にーから勉強しました。
- 教養試験対策は少しずつ毎日やっていました。
- 小論文や面接については直前に対策しました。

#### ● 試験結果

- 席次 中の上
- 英語加点 あり(15点)

#### ● 利用してよかったもの

- 過去問(学内講座テキスト)
- 学内講座(最新の情報を得られて良かったです)

### 2. 各試験の具体的な対策法

#### ● 教養1次

過去問を中心に、公務員講座で配布されたテキストを参考にして勉強しました。数的処理は苦手だったので、練習しつつもほぼ捨ててました。文章理解と英文読解は落とせなかったのが毎日1問ずつ以上は勉強していました。ニュースを見ているだけでも、自然科学や社会科学は解けるものもある気がします。

#### ● 専門1次（技術論、構造力学(土木・建築)、流体力学、環境工学・衛生工学、熱力学、建築史・都市計画)

土木分野3力(構造力学、水理学、土質力学)は毎年の傾向が掴みにくく、かつ複雑であったため、同じ原理で回答できる流体力学(機械)、構造力学(建築)、材料力学(機械)の過去問も解いていました。そのほか熱力学、環境工学・衛生工学、建築史・都市計画は準備しました。技術論は初見でも解けることがあります。

#### ● 専門2次（環境工学・衛生工学(A・B)、熱力学)

衛生工学は、過去問の答えを先輩からいただいた上で、時事はネットで調べつつ回答を作っていました。下水と上水に関する本を一冊手に入れると網羅できると思います。熱力学は過去問の回答をいただいた上で、何度か解きました。熱力学は毎年サイクルが出るので練習すれば初めての方でもどうにかかります。

#### ● 小論文

小論文は年によってテーマの動きが大きいので、一回だけ小論文の書き方を学ぶ意味で書きました。そのあとは社会問題となっているトピックに対して、ある程度固めておいた自分の意見に収束できるように道筋を作りました。(笑)

#### ● 人事院面接

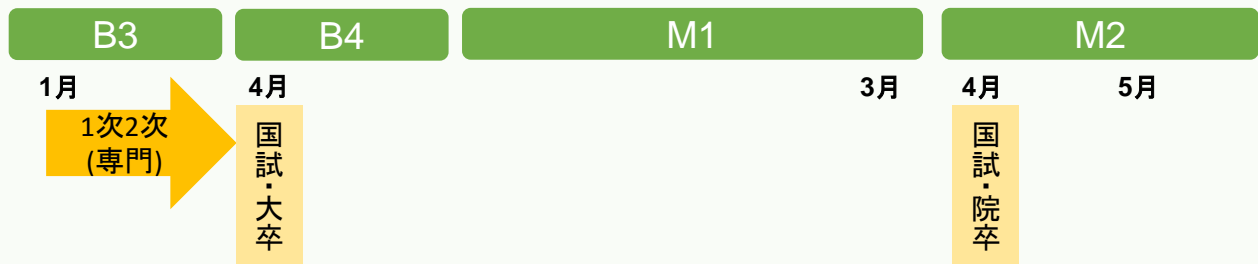
志望理由はしっかり答えられるように準備しましたが、その他には特に対策をしませんでした。

## とてた(工学区分/院卒者/2019年度)

～大学所在地：東京都 / 工学系研究科 都市工学専攻～

## 1. 試験対策の概要

## ● スケジュール



実際に国家公務員試験用に勉強したのはB3の時のみ。  
院試や民間のテストで専門分野や教養分野は似たようなのが出るのでそれで代用。

## ● 教養・専門・面接・論文/政策討議の勉強量バランス

専門(水理学のみ)  
100%

国家公務員試験に向けて勉強したのは専門分野で且つ計算などの処理が必要な科目のみ。

## ● 試験結果

- ・ 席次 下の中 (大卒程度)  
中の上 (院卒者)
- ・ 英語加点 あり (25点)

## ● 利用してよかったもの

- ・ 大学の講義資料
- ・ 過去問の冒頭の試験概要

## 2. 各試験の具体的な対策法

## ● 教養1次

民間のWebテストに近いのでそれで練習したことになるのかな？Webテスト対策も特に何もしませんでした。

## ● 専門1次 (技術論⑤/基礎科学③/工学基礎実験⑤/土質力学・水理学①/環境工学・衛生工学⑤/熱力学・熱機関①)

数字は当日解いた問題数です。大学の講義や院試で何度も勉強しているので特に対策せず。しかしながら勉強を比較的していたはずの水理学は当日全然解けなかったため、他の解けそうな問題を探しました。自信のある分野が分からなくても焦らずに解ける問題を探しましょう。工学の場合難しい問題は避けて、他の分野の常識問題をひろうと行った戦略も大切です。

ちなみに元のプランは上と同じ順番で5-0-5-5-5-0で解く予定でした。プランただ崩れ。

## ● 専門2次 (環境工学・衛生工学/水理学→熱力学・熱機関)

大学の講義や院試で何度も勉強しているので特に対策せず。相変わらず水理学は当日一問も解けなかったため、諦めて熱力学を高校物理の知識でがんばって解きました。この科目以外にも意外となんとかかなりそうな科目はあったので、当日解けなくても慌てずに一点でも稼ぎにいきましょう。

## ● 政策討議

民間就活でグループディスカッションを何度もやっていたので特に対策はしていません。

## ● 人事院面接

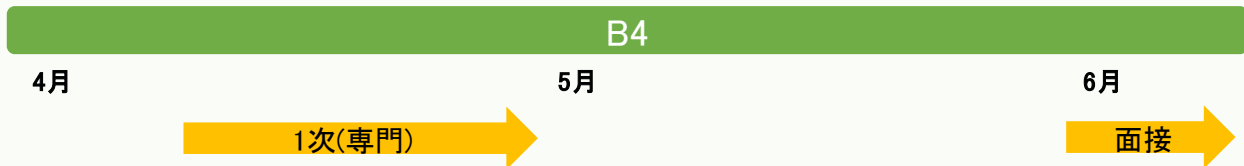
民間就活で面接を何度もやっていたので特に対策はしていません。

## アロマ（工学区分/大卒程度/2017年度）

～大学所在地：宮城県 / 工学研究科 土木工学専攻～

### 1. 試験対策の概要

#### ● スケジュール



B4で研究室に入ってすぐ、教授の方針で同期全員が国家公務員試験を受けることになりました。その時点で1次試験まで1か月も無かったので、範囲をかなり絞って対策をしました。以下では「短い対策時間でいかに点数を掻き集めたか」という視点でまとめたいと思います。

#### ● 教養・専門・面接・論文/政策討議の勉強量バランス



純粋に時間が足りなかったのが、基本事項さえ押さえればすぐに点数に反映されそうな専門に注力しました。教養は大学受験までの知識である程度なんとかなりそう、小論文は付け焼刃の対策では効果が薄そう、という理由でそれぞれ対策を切り捨てました。

#### ● 試験結果

- ・ 席次 下の下
- ・ 英語加点 なし

#### ● 利用してよかったもの

- ・ 大学のレジュメ(水理学, 土質力学)
- ・ 高校物理の問題集

### 2. 各試験の具体的な対策法

#### ● 教養1次

解く方法が直感でわからない問題に、いかに時間をかけないかが大切だと思います。解ける問題を取りこぼさないよう、優先して解きました。

#### ● 専門1次

(技術論, 構造力学・土木材料・土木施工, 土質力学・水理学, 環境工学・衛生工学, 土木計画, 建築史・都市計画)

一番優先して対策すべきところだと思います。難易度のイメージとしては「高校+大学の範囲で行うセンター試験」という感じだったので、基礎事項をしっかり復習することを心がけました。

必修問題に関しては、前半の数学部分ではまず躓かないだろうと判断したので、後半の物理部分のみ、大学受験時に重宝した問題集で公式等を確認しました。

選択問題は、大学の授業で比較的得意だった水理学と土質力学と環境工学、とくに対策しなくてもある程度解けそうな技術論、問題の範囲が被ってるのに何故か両方選択できる土木計画と都市計画に目星をつけました。その中でも基礎事項の復習が点数に直結しそうな水理学と土質力学を中心に、大学のレジュメを見直す等しました。

#### ● 専門2次(失念)

試験時間がかなり長く、解かなければならない問題数は少ないので、対策してきた分野にこだわらず、少しでも多く解けそうな科目を落ち着いて探しました。

#### ● 小論文

「目的」「状況」「手段」「結果」を整理した書き方を心がけました。

#### ● 人事院面接

面接カードの内容はそらで言えるようにしました。民間でも地方公務員でもなく国家公務員を選択した理由は整理しておくと思いいます。



## てら（工学区分/院卒者/2019年度）

～大学所在地：大阪府 / 工学研究科 環境・エネルギー工学専攻～

### 1. 試験対策の概要

#### ● スケジュール



M1の2月から1次試験に向けて勉強を始めました。4月の末まで1次試験の対策に専念していたので、2次試験の対策にかける時間は不十分でした。専門試験は1次と2次で重複している部分もあるので、同時並行で進めるのがいいと思います。

#### ● 教養・専門・面接・論文/政策討議の勉強量バランス



専門試験を重点的に勉強しました。忘れていたり新たに学ぶ部分が多かったので、1年分の過去問を解くのははじめは苦労しました。

面接・政策討議については、民間就活で何度か経験していたので、あまり対策しませんでした。

#### ● 試験結果

- ・ 席次 下の中
- ・ 英語加点 あり(25点)

#### ● 利用してよかったもの

- ・ やはり一番は過去問
- ・ 学部時代に受けた授業の資料

### 2. 各試験の具体的な対策法

#### ● 教養1次

過去問をひたすら解きました。教養は専門と違いスピード勝負のようなところがあるので、問題の形式に慣れ、解ける問題と捨てる問題を見極めることが大事だと思います。時事問題に関しては、空き時間や移動時間にネットで話題になっているトピックを調べたり、市販の時事ネタ本を見たりしました。

#### ● 専門1次（熱力学・基礎化学・電磁気学・原子力）

ざっと基本的な内容を教科書などで確認したあと、過去問を解きながら公式やその周辺を埋めていくという流れで勉強しました。新しい問題を次から次へと解くよりは同じ問題を繰り返し解き、その都度わかっていないところを確認しながら理解を深めていきました。

#### ● 専門2次（電磁気学・熱力学）

1次試験と同じ領域については、過去問を数年分解きました。それ以外の部分は、知識もなく、いちからのスタートだったので、基礎的な内容まで丁寧に説明してくれている市販の参考書で対策しました。

#### ● 政策討議

民間就活で経験していたこともあって、特に対策はしませんでした。

#### ● 人事院面接

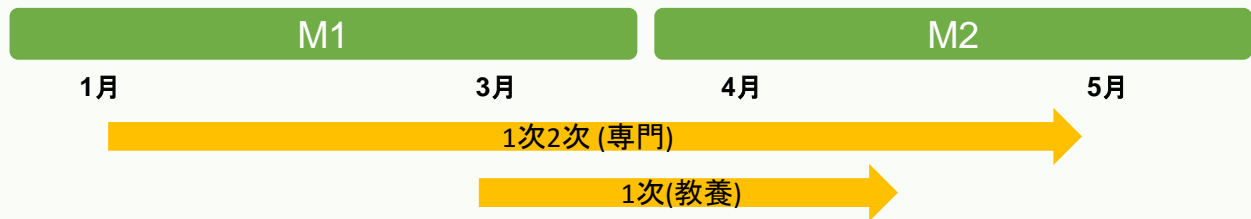
志望動機や自分の長所短所など、基本的な質問に答えられるよう準備しました。また、これまでの就活で聞かれてうまく答えられなかった質問に対して、適切な回答を作成していきました。

## 身の丈177センチ(工学区分/院卒者/2018年度)

～大学所在地：東京都 / 工学系研究科 都市工学専攻～

### 1. 試験対策の概要

#### ● スケジュール



M1の1月から2次試験に向けて勉強を始めました。1次試験の1か月前(3月下旬頃)から、並行して1次試験の準備もしました。まずは、1次・2次試験の過去問をみて、試験対策のバランスを考えることをオススメします。私の場合は、このバランスで最適だったと思います。

#### ● 教養・専門・面接・論文/政策討議の勉強量バランス



過去問をみた印象と配点が高いことから、専門2次の対策に最も時間割きました。

面接は民間就活で、討議についても、民間就活で、なじみのないテーマについて、初対面の人と話し合う経験を積んでおくことで十分対策となる印象です。

#### ● 試験結果

- ・ 席次 上の中
- ・ 英語加点 なし

#### ● 利用してよかったもの

- ・ 過去問
- ・ 普段から新聞読む

### 2. 各試験の具体的な対策法

#### ● 教養1次

過去問を2年分ほど解いて、短時間で回答にたどり着ける問題のみ時間内に解く練習をしました。

#### ● 専門1次 (覚えていない)

ルール(いくつかの分野から何問以上回答したい)だけ破らないように注意しながら、当日解けそうな分野の問題を回答しました(だから、選択した分野覚えていません)。なじみのない専門分野の問題でも、1次試験に関して言えば、高校までの知識で解けるものもあるので、冷静に見極めると点数につながると思います。

#### ● 専門2次 (構造力学(土木)、環境工学(土木)・衛生工学)

計算系、知識系の分野を1つずつ選ぶのをオススメします。構造力学(土木)は、ほぼゼロから教科書2冊買って勉強しました。環境工学(土木)・衛生工学は、学部の授業の復習で十分対策ができました。

#### ● 政策討議

民間就活で、初対面の人と話し合う経験を積んでおくといいと思います(緊張する方は特に)。

なじみのないテーマについては、普段から新聞読んで、視野を広げておくことと、自分の意見をすぐ考えてまとめる訓練をしておくことをオススメします。

#### ● 人事院面接

基本的に、面接カードに基づく面接でした。民間就活で面接は何度か経験したので、緊張もしませんでした。緊張する人は、面接カードの内容からどんな質問されるかイメージしておくといいかな。

## 食洗機(数理学・物理・地球科学区分/院卒者/2019年度)

～大学所在地：茨城県 / 生命環境科学研究科 環境バイオマス共生学専攻～

### 1. 試験対策の概要

#### ● スケジュール



M1の時に大卒程度試験を受けました。そのおかげで、試験・面接の感覚がある程度つかめており、院卒者試験を受ける際の対策がしやすかったです。直前期の2月～4月には学会が入っていたので、あまり時間がとれず、専門試験に絞って勉強をしました。教養試験に関しては学会が終わってから、すぐに効果が出そうなところに絞って勉強しました。

#### ● 教養・専門・面接・論文/政策討議の勉強量バランス



専門試験を中心に勉強をしました。理由としては、専門試験のほうが学部時代に勉強していたことと被っていたこともあり、短時間で点数が稼げると思ったからです。面接や討議にはあまり時間を割きませんでした。

#### ● 試験結果

- ・ 席次 下の中(大卒程度) 中の上(院卒者)
- ・ 英語加点 あり(25点)

#### ● 利用してよかったもの

- ・ 過去問
- ・ 学部時代の授業の資料

### 2. 各試験の具体的な対策法

#### ● 教養1次

市販のテキストを用いて、勉強をしました。教養分野は対策しても効率が悪いと思ったので、勉強はしませんでした。その分、数的処理・数的推理の勉強をしました。

#### ● 専門1次(基礎物理, 地球科学, 古典物理, 地球物理, 地質学)

物理に関しては、市販の工学系のテキストを購入して解いていました。地球科学系の問題に関しては体系的に勉強するというよりも、学部時代の資料を眺めたり、地球科学に関する読み物をあさったりして、勉強しました。

#### ● 専門2次(地球物理学)

基本的には過去問に取り組みました。しかしながら、専門2次試験の過去問には解答がなかったので、該当する内容をネット上で調べたり、図書館に行って教科書を借りたりして自分なりに答え合わせをしていました。

#### ● 政策討議

いまいち情報が得られず、特に何もしませんでした。

#### ● 人事院面接

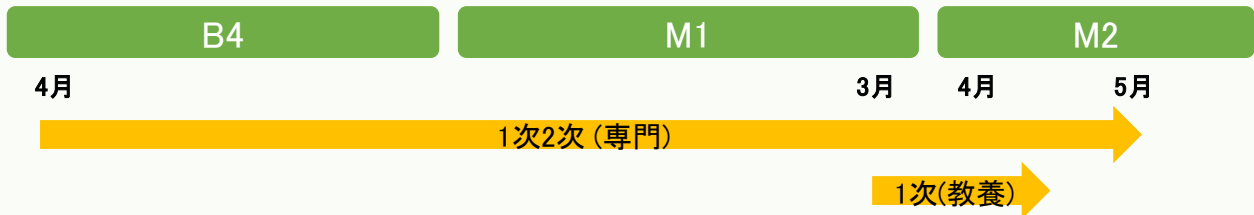
大卒程度試験で一度経験していたので、それを思い出しながら面接カードを作成しました。面接カードの内容としては、詳しく書くのではなく、ざっくりとしたものを並べることを意識しました。その代わりに、それぞれについて詳しく聞かれたときに答えられるように準備をしました。

## マスター(化学・生物・薬学区分/院卒者/2019年度)

～大学所在地：東京都 / 生命理工学院 生命理工学系専攻～

### 1. 試験対策の概要

#### ● スケジュール



研究室に所属したB4の4月から研究のために専門分野の勉強を始め、結果的に一次二次の専門の試験対策となりました。

教養試験については試験直前の2か月前くらいから始めました。

#### ● 教養・専門・面接・論文/政策討議の勉強量バランス



試験の配点が高い専門分野を重点的に勉強しました。民間の就職活動を通して慣れていたこともあり、面接・政策討議についてはあまり力を入れて対策をしませんでした。

#### ● 試験結果

- ・ 席次 上の中
- ・ 英語加点 あり (25点)

#### ● 利用してよかったもの

- ・ 過去問
- ・ 大学の教科書

### 2. 各試験の具体的な対策法

#### ● 教養1次

基本的に過去問を中心に対策を行いました。知識分野は諦めて、知能分野の問題を数多く演習し、問題を解くための考え方などを身につけられるように意識しました。

#### ● 専門1次 (数学・物理、生化学・分子生物学、応用微生物学・生物工学、細胞生物学・放射線生物学、遺伝学・進化学)

数学・物理に関しては大学受験の記憶を信じて特に対策はしませんでした。生物分野全般は範囲が膨大であったため、二次試験でも使用できる科目に重点を置いて勉強しました。基本的な流れは大学の教科書を読んで知識のインプットを行い、直前の過去問演習を通してアウトプットを行いました。

#### ● 専門2次 (生化学、分子生物学・生物工学)

対策方法は専門1次と同様な方法で行いました。ただし、2次試験の場合は問題形式が論述式になるため、より深い理解が必要となります。試験直前の1か月間は、「なぜ？」を探求し、現象や事象を自分の言葉で説明することができるように意識して勉強しました。

#### ● 政策討議

政策討議の流れは確認しておく必要があると思います。特にレジユメの作成方法などはある程度事前に構想を練っておくと当日スムーズに作成することができます。

#### ● 人事院面接

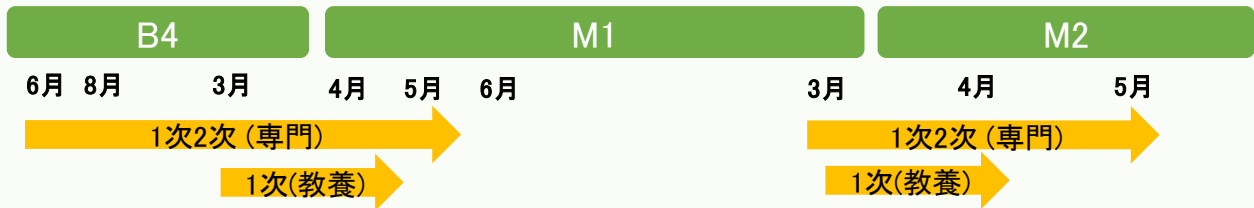
志望理由はしっかり答えられるように準備しましたが、その他には特に対策をしませんでした。

## 6年生（農業科学・水産区分/院卒者/2019年度）

～大学所在地：京都府 / 農学研究科 応用生物科学専攻～

### 1. 試験対策の概要

#### ● スケジュール



4回生の8月に院試があり、その勉強がそのまま専門試験の対策になりました。M1で受験しようと決めたのが直前だったため、教養試験の対策は1ヵ月ほどしかできず、ぎりぎりでの合格でした。

M2の院卒者試験は前年度の貯金があるのと、民間と平行しての受験だったので、3月から復習程度に勉強をしました。

#### ● 教養・専門・面接・論文/政策討議の勉強量バランス



専門試験の方が確実に点が取れると考えて専門重視で勉強しました。

面接や政策討議は、民間での面接やグループディスカッションの経験があったので、質問事項や形式などをチェックするだけで、特別な対策はしませんでした。

#### ● 試験結果

- ・ 席次 中の上
- ・ 英語加点 あり(15点)

#### ● 利用してよかったもの

- ・ 過去問
- ・ 白書
- ・ 学部のとときの授業資料

### 2. 各試験の具体的な対策法

#### ● 教養1次

過去問を中心に、市販の問題集を使って問題形式に慣れるよう勉強をしていました。また、研究室で日経新聞を購読していたので、時事問題対策としてできるだけ毎日目を通すようにしていました。

#### ● 専門1次（農業資源経済学、水産経済学・水産経営学、漁政、漁業学・水産資源学、水産海洋学・水産環境保全）

過去問を解きながら、その都度わからなかったところを調べて復習する形で進めていました。経済分野については学部のとときの知識を復習しながら、水産分野については院試勉強のノートや資料を読んで思い出すようにしていました。

#### ● 専門2次（水産海洋学、水産環境保全）

1次と大きくは変わりませんが、白書を読み込むようにしていました。また記述の練習を兼ねて過去問を解いて書けるか確認することが中心でした。

#### ● 政策討議

おおまかな進め方やレジュメの作り方を当日の移動中に調べて確認をしていましたが、そのほかは何もしてないです。

#### ● 人事院面接

M1の大卒程度試験の際は志望理由を明確に言えるようにすることと、想定質問などを考えていきましたが、M2の院卒程度試験は官庁訪問後だったので、官庁訪問時のことを思い出す程度でした。